

英語のつづりと発音の関係

1. 原則

英語の発音は基本的にはローマ字(ヘボン式)と同じように、母音 a(ア),i(イ),u(ウ),e(エ),o(オ)と子音(母以外の音)の組み合わせで決まります。だから、ローマ字が読めて書ければ、それを応用すれば理解は、はやいです。

2. アルファベットの読みと担当する行の関係

エイ a	“エ”と“イ”の2つの母音から成る(二重母音), ア, エイ, エ, オ などの読み方がある。
ビー b	“ビ”だから バ・ピ・ブ・ペ・ボ
スイー c	“スイ”だから サ・スイ・ス・セ・ソ (サ・シ...でないことに注意) s の音 他に k の音(カ行)を担当することが多い。
ディー d	“ディ”だから ダ・ディ・ドゥ・デ・ド (ダ・ジ・ズ...でないことに注意)
イー e	“イー”母音。 エ, イ, イー などの読み方がある。
エフ f	“エフ”だから、 ファ・フィ・フ・フェ・フォ
ジー g	ふつうは ガ・ギ・グ・ゲ・ゴ を受けもつ。ときにや ジュ (ge)
エイチ h	ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ
アイ i	“ア”と“イ”の2つの母音から成る(二重母音), イ, アイ などの読み方。
ジェイ j	“ジェ”だから、 ジャ・ジ・ジュ・ジェ・ジョ
ケイ k	“ケ”だから、 カ・キ・ク・ケ・コ
エル l	“ル”だから、 ら・り・る・れ・ろ 。日本語のラ行に近い音だが、rの音と区別するため辞書などでは、ひらがな
エム m	“ム”だから マ・ミ・ム・メ・モ
エン n	“ン”。そのほかに ナ・ニ・ヌ・ネ・ノ
オウ o	“オ”と“ウ”の2つの母音から成る(二重母音), オ, オウ, ア など
ピー p	“ピ”だから パ・ピ・プ・ペ・ポ
キュー q	後に母音をともなって、 クワ・クエ と読むことあり。
アー r	ラ・リ・ル・レ・ロ 。ただし、日本語のら行とちがいで、舌先を上につけないで、のどのほうに丸めていく。日本語のら行に近いのは ^{エル} lの音。また、母音のすぐ次にきたときは、その母音をのばすのに使われることが多い。
エス s	“ス”だから サ・スイ・ス・セ・ソ, ザ・ズィ・ズ・ゼ・ゾ (にごる音)
ティー t	“ティ”だから タ・ティ・トゥ・テ・ト (タ・チ・ツ...でないことに注意)
ユー u	ユ の読み方が時々。たいていは母音として、 ア と読むことが圧倒的。 ウ と読むことはほとんどない(ウと読む必要がほとんど無いから)。
ヴィー v	唇を破裂させる音。“ ヴィ ”だから ヴァ・ヴィ・ヴ・ヴェ・ヴォ
イクス x	単語の最後の文字になって、 クス 。

ダブル w	ワ・ウィ・ウ・ウェ・ヲ (ここでのウィ・ウ・ウェはワ行の音で、母音ではない)
ワイ y	子音としてはヤ・イ・ユ・イエ・ヨ。母音 i のかわりに使われることもよくあり、このときはアイ, イ
ゼッド z	“ゼ” だからザ・ズィ・ズ・ゼ・ゾ

3 . 2 字の子音が集まって 1 つの行を担当する組み合わせ(ローマ字にないものもふくむ)

sh...シヤ・シ・シュ・シェ・シヨ ts...ツ(だから、t はトゥ)

ch...チャ・チ・チュ・チェ・チヨ

wh...ワ行の前に、軽くフをつけて、フワ・フワイ・フウェ(what など)

th...さ・すい・す・せ・そ s のサ行とちがひ、舌をかねて、息をもらす音。

辞書などでは、s のサ行と区別するため、ひらがなで書かれる。

ざ・ずい・ず・ぜ・ぞ(にごる音)

ck(最後の ck)...ツク(つまってク)

4 . 母音字を 2 つ以上組み合わせる

oo...ウ, ウー(オの音は消える) ee...イー

ea...イー, エ

er...ア

ar...はっきりしたアー(口を大きめに開けて、はっきりアーと発音する)

ir, ur, or, ear...あいまいなアー(口をポケ~と開けて、ただ声を出すだけ)

5 . 母音と子音を組み合わせる

aw...オー

ow...アウ

ew...ユー

6 . いくつかの原則

(1)子音だけ...原則ウの段で読む ウの段以外で読ませたければ、母音をつける。

(2)最後の e は原則として発音しない。

(3)ときどき、読まない字があります。

6 . 実践例

desk de s k
 デ ス ク

de d でダ行, e はイかエ。この場合はエで、**デ**
s サ行で、母音がないからウの段で**ス**
k カ行で、母音がないからウの段で**ク**

name na me
 ネイ ム

na a をエイと読んで、**n** と**エ**で**ネ**,イが残って、**ネイ**
me e を無視すれば m だけで**ム**

book boo k oo はウかウー。この場合はウで、フ。つまるのは読み
ブッ ク やすくするため

以下、説明を省いて、分解しての読み方のみを記します。

like ライ ク li ke	listen リ ス ン li s te n 読まない字	under ア ン ダ u n der
speak ス ビー ク s pea k	meet ミー トウ mee t	computer コ ム ビュー タ co m pu ter
summer サ マ su mmer	Dear ディ ア De ar	enjoy イン ジョ イ e n jo y
this ズィ ス thi s	third サー ドウ thir d	please プ リー ス p lea se
dance ダ ン ス da n ce	January ジャ ニュ ア リ Ja nu a ry	
work ワー ク wor k	month マ ン ス mo n th	sit スイツ トウ si t
but バッ トウ bu t	simple スイ ム プ ル si m p le	swim ス ウィ ム s wi m
write ライ トウ w ri te 発音しない	only オウ ン リ o n ly	use ユー ズ u se
run ラ ン ru n	right ライ トウ ri gh t 発音しない	next ネ クス トウ ne x t
from フ ロ ム f ro m	well ウェ ル we ll	home ホウ ム ho me
with ウィ ズ wi th	have ハ ヴ ha ve	hand ハ ン ドウ ha n d
three ス リー th ree	park パー ク par k	people ビー プ ル peo p le
kind カイ ン ドウ ki n d	king キ ン グ ki n g	place プ レイ ス p la ce

などのように、つづりを分解していくと、読み方の見当がついてきます。

つづりを覚えるときは、アルファベットで覚えるのではなく、例えば desk なら、「デ」と言いながら de, 「ス」と言いながら s, 「ク」と言いながら k, と書いていくと効果的です。

また、その逆に単語を読むときも de を見て「デ」、s を見て「ス」、k を見て「ク」のように、なんとなく読むのではなく、しっかり単語をつづりに分解して読むくせをつけると、覚えるのがとても速くなります。規則性もいろいろ気づいていきますよ。

終わりに

英単語の発音がうまくできない。英単語のスペルが覚えられない…。長年にわたる指導において、生徒たちの切実な悩みでした。この2つの問題をいっぺんに解決する方法はないものか？ 以下に述べる事柄は、私が導いた最良の解決策です。

英語の発音とスペルの関係をマスターする。読むときも書くときも、その規則性を考えながら学習していけばいいのです。

単語の練習を、ただアルファベットをその通りに組み合わせて書くだけ。読むときも教えられたとおり何となく読むだけ。このような「勉強」とは、今日でサヨナラしましょう。

本稿に関する注意事項

- ・ローマ字(ヘボン式)が一通り理解できていることが前提となります。
- ・英単語における発音とスペルの規則性を重視しています。
- ・英語としての正しい発音の仕方は、日本語とは相当異なるものを中心に、できるだけくわしく説明してあります。
- ・発音記号を覚える負担を減らすため、**発音はすべてカタカナに直す形**をとっています。実際の英語の発音を、なるべくそれに近い日本語に置き換えているため、正式な発音とは異なる部分があります。慣れてきたら、発音記号を学習することをおすすめします。